

# カエデ見本林

カエデの仲間には、イロハモミジに代表されるように、葉に手のひら状の切れ込み<sup>こ</sup>があり、秋になると美しく紅葉するイメージがあると思います。しかし、切れ込みのない葉を持つものや、常緑のものなど、いろいろな形態があります。種子に翼<sup>つばさ</sup>が生えたような形状が特徴<sup>とくちょう</sup>で、回転しながら遠くに飛ぶことができます。葉は対生<sup>たいせい</sup>です。

ここには、トウカエデ、チドリノキ、ミツデカエデ、カジカエデ、メグスリノキ、イロハモミジ、イタヤカエデ、ハナノキなどのカエデ属の樹木が生育<sup>くわ</sup>しています。詳しく知りたい方は右のQRコードからご覧ください。



ミツデカエデの3出複葉<sup>さんしゅつぷくよう</sup>□  
と翼が生えたような種子○



## まめ知識

～紅葉のふしぎ～

なぜ、落葉樹の葉は秋、黄や赤などに紅葉するものがあるのでしょうか？ 葉には緑色の「クロロフィル」と黄色の「カロチノイド」の色素が入っています。通常は「クロロフィル」の方が多いため、葉は緑色に見えます。葉が黄色くなる樹木は、秋になると光合成をしている「クロロフィル」が分解されて「カロチノイド」が残るので黄色く見えます。赤く紅葉する樹木は、「クロロフィル」が分解されることに加え、枝と葉の間に「離層<sup>りそう</sup>」と呼ばれるコルク状の物質ができます。すると光合成で作られた糖分が葉から枝に戻らなくなり、「アントシアニン」という赤い色素が生成されるので、赤く染まるのです。

